

暴風雪に備える技術情報について

令和4年11月22日

留萌農業改良普及センター

暴風雪時の注意事項

- 1 最新の情報に注意し自然災害に備え、農場の危機管理対策を強化する
- 2 暴風雪の影響を受けやすい地域では早めの行動をとる
- 3 吹雪による交通障害に備え、購入飼料、燃油等は早めに発注する
- 4 暴風雪時は、むやみに施設等に近づかず、安全の確保を心掛ける

I 施設園芸

1 強風・降雪への準備・対応

- (1) これまでの風雨や降雪により、施設各部の損傷・ゆるみ・たるみなどが点検し補修する。

ハウス周辺に堆積した雪は、屋根の雪の自然落下を妨げて施設の側壁に側圧を加えることとなるので速やかに除雪する。

雪の重みにより被覆ビニールがたわんで雪が自然落下しにくくなる状況や、吹きだまりや日当たりの良い南側の屋根雪だけが落雪する等により、パイプハウスにゆがみが生じる恐れがあるので、早めに雪庇落とし等を使って雪下ろしを実施する。

- (2) 大雪警報等が発令された際は、直ちに補強支柱等の補強材を応急的に取り付ける。また、屋根被覆材の表面に雪の自然落下を妨げるような突出物等や、ビニール・押さえひも等のゆるみがないかを再点検する。

加温設備がある場合は、降雪開始と同時に可能な範囲で設定温度を高める。加えて、内張りを開放するなど外張りの天張面を温めて落雪を促す。ただし、ハウス内に栽培または育苗中の作物がある場合は、作物の適温範囲内での開閉管理とする。

- (3) 冬季無被覆パイプハウスを撤去しない場合は、除・排雪作業を行う。肩部直管パイプ等が雪に埋没したまま放置すると、沈降圧により変形・破損等の原因となるので早めに掘り出しておく。

II 果 樹

1 強風・降雪への準備・対応

- (1) 施設の破損を防ぐため、雨どいの雪下ろしやぶどう棚外周の架線を引き上げたり、架線上の雪を落とす。
- (2) 枝折れを防ぐため、雪に埋まった枝は沈下しないうちに可能な限り掘り起こす。その際細かい枝を折らないように十分注意する。雪が固まり掘り起こしが困難な場合は、スコップで雪に切れ目を入れたり、樹冠下の雪踏みを行う。
- (3) 主枝や側枝に枝折れが発生した場合、切り直しをして癒合剤を塗布する。

Ⅲ 畜 産

1 生産施設等の点検

- (1) 日頃から除雪を行う。特に、建物同士の間隔が狭い場所やD型ハウス状の牛舎・倉庫周辺の除雪は、よりこまめに行う。
- (2) 農場内に雪捨て場を設ける場合、春先に融雪水が畜舎やふん尿施設等に入らないようにする。
- (3) 通行止めや停電等で搾乳や飼養管理に支障が出た場合の連絡先や対応方法を整理しておく。

2 停電への対応

停電により搾乳及びバルククーラの冷却ができない等、作業に支障がある場合は次のことに留意する。

- (1) 前回搾乳から16 時間位までの搾乳中止は、乳量や乳質に特に問題は生じない。
- (2) 発電機を手配し、それらを利用して搾乳・冷却をおこなう。
- (3) 発電機は必要電力に対し十分に余裕を持った機材を用いる。
- (4) 停電中、バルククーラに冷却中の生乳は速やかに集乳するよう体制を整える。
また、十分攪拌しないでサンプリングした生乳検体は、体細胞数が異常に高まることがあるので注意する。出荷する際には細菌数の検査を実施する。
- (5) 手搾りが可能な酪農家は、泌乳前期牛の搾乳を優先する。
- (6) その他、停電で使用不能となる設備の確認をする（例えば、水槽揚水ポンプ、サイロのアンローダー、電気牧柵、自動給餌機、電気温水器、照明器具、自動哺乳装置）。

3 停電解消後の対応

- (1) 通電後は優先順位に従ってブレーカーを戻し、ミルカーなど電気を動力源とする機械が正常に作動するか速やかに点検する。
- (2) 通電後、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、罹患している場合は治療する。
- (3) 通電忘れがないか、再度確認する。
- (4) 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診察を受ける。

4 道路の不通により生乳出荷できない場合

幹線道路の除雪が間に合わず、出荷できない場合は次のことに留意する。

- (1) 情報収集に努め、除雪や集乳状況等の確認を行う。
- (2) やむを得ず廃棄する場合は、環境汚染防止に努める。